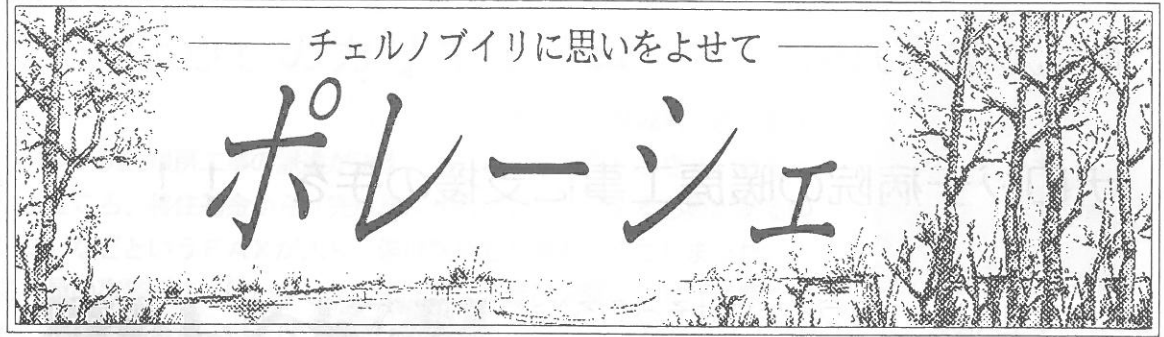


—— チェルノブイリに思いをよせて ——

ポレージェ



さあ、イベントの秋 !!

9月13日（日）、晴天！

愛知県の小牧市にある「市民の森」で、地元の青年会議所の皆さんをはじめとするたくさんの小牧市民による、手作りフェスティバル「夢小牧'98」が開催されました。

私達「チェルノブイリ救援・中部」も、名古屋NGOセンターの呼びかけに応え、3年連続で参加する事が出来ました。今年は絶好のフェスティバル日和となり、小牧市民の方々と楽しいひとときを過ごしました。

皆さんのまわりでも、たとえば、

学校や町内会で、フリーマーケットやリサイクルバザー等の素敵な企画が予定されていませんか？ 『チェルノブイリの子ども達』をキーワードとして、一緒にボランティア活動をしてみませんか？ 私達は、いつでも、パネル・パンフレット等の資料や、ウクライナの民芸品・支援者からいただいたバザー用グッズ等を持参して、仲間に加わりたいと願っています。是非、声をかけてくださいネ。

私達「チェルノブイリ救援・中部」は、いつも救援活動の原点に立ち返って、支援してくださる方、そして新しい仲間との出会いを大切にしていきたいと考えています。

〒466-0822 名古屋市昭和区薬園町137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：中島しぐれ

郵便振替：00880-7-108610

☎/FAX：052-836-1073（月・水・金 10:30～15:30）

原さんウクライナに行く

ナロジチ病院の暖房工事に支援の手を！！

もう 10 月、ウクライナにはそろそろ冬がやって来る。2 年前、零下 20 度のナロジチで暖房もない、水もお湯も出ない病室で厚着をしながらの入院生活を見て、私たちは何とかしたいと皆様に呼びかけました。幸いたくさんのカンパが集まり、ナロジチ病院の給水・給湯設備が修理出来ました。このとき初めて伊那の原さんがナロジチに出かけ、現地の作業員たちとともに働き、ウクライナの配管工事の現状が良く分かりました。鉄パイプの切断と接合は溶接でやるなど、少ない道具で出来ることは良いが、仕上がりは悪く、パイプのつまりなど耐久性には大いに問題があることが分かりました。昨年度は外務省の支援も得て、第 1 期工事として入院病棟の暖房設備を完成し、今年は 3 年目、第 2 期工事として外来病棟に暖房を入れることになりました。



ナロジチ病院に来た親子



暖房用の配管材料

10 月 2 日原さんがまたナロジチに出発します。工事費用はしめて 251 万円、170 万円が外務省補助金、81 万円と原さん渡航費用は自己負担です。今回は、パイプカッターや、ねじ切り機などたくさんの機材を持参するので費用も運賃もかかります。ウクライナでは救援物資にまで 30%の税金がかかると分かって、真っ青。大使館やウクライナ政府に無税措置を働きかけています。目標 150 万円。皆様またまたカンパをよろしくお願いします。「ナロジチ支援」と明記して下さい。10 月末にはナロジチ病院

にやってきた患者さんたちが暖かい待合い室や病室で過ごせるよう、原さんががんばって行ってらしゃい。

(河田)

まぼろしのカリキュラム

長野県南箕輪村 原 富男

ナロジチ病院暖房工事の派遣が決まって「お土産を買わなきゃ」と考えていたところ、移住基金から「完成後に来ればいい。」「来る必要があるのか…？」などというFAXが入り、僕は気持ちが落ち込んでしまった。

名古屋の事務所「行かない！」事を伝え、僕は完璧にいじけ状態に入った。現地の都合から言えば、保安上の不安があり（僕の宿泊所は、毎晩パトカーが巡回する）困る事かもしれないが、外務省や建設省の交付金申請にも、僕が現地に行く事が条件になっている。気持ちは二転三転した末に、僕が行かないと交付金が没収され暖房工事ができないし、寝覚めが悪くなりそうなので行く事にした。ところが今度は、「建設省の派遣費用が出ない事件！」が起きたのだ。当初ゼレムリヤ診療所の水道工事を中心に申請していたのを、ナロジチ中心にしたので駄目だという。困っていたら建設省が「配管工事講習会にすればOK！」だと言うので、生れて初めてカリキュラムと言うものを作ってみた。我ながら立派！これで安心とホッとしていたら、建設省から返事がきて同じ事業に2つの省からの支援はできないと言う。結局派遣事業は自力カンパで集めることとなった。

建設省の派遣費用が駄目になって困ったのは、機械工具類の持ち込みだ。ウクライナでは救援物資でも30%課税されるのだ。非課税にするには内閣の人道支援委員会の認定が必要だと言う。困ってしまい在日日本大使館やら外務省に頼んだり、在日ウクライナ大使館に行ったりのめちゃくちゃな状態になった。今ようやくやれることは全部やり終え、運天（原さん語：運を天に任せるの意味）状態に入った。

どうか晴れのち曇り、快晴になりますように…河田さんお互いに疲れたね。

第2回スタディツアー開催（ただいま準備進行中）のお知らせ

今から3年前、4月26日のチェルノブイリ事故追悼祈念日をはさむ11日間、総勢14名のスタディツアーを計画しました。小児病院・サナトリウム（療養所）・チェルノブイリ原発・汚染地の村ナロジチ・移住者の村ゼレムリヤそして、ジトーミル消防署で行なわれた記念式典への参加など、観光旅行では味わうことのできない貴重な体験をしました。このスタディツアーに対する反響は大きく、「次はいつやるのですか？私も是非参加したいのですが…。」という声をたくさん聞きました。皆様のご期待に応じて、よいよ第2回スタディツアー開催が具体化してきました。詳しくは、次号でご案内します。



第1回スタディツアーの参加者（カレンダーハウスにて）

概略は次のとおりです。

開催日時：1999年8月～9月の間で12日間程度

参加費用：約30万～35万円（一人あたり）

参加しやすい日程と安い費用を交渉中！

募集人員：15～20名

内容：「子ども達との出会い」「文通相手との対面」「事故処理作業員（消防士達）との交流会」「チェルノブイリ原発は今」などなど、私たちの救援物資が活躍する様子を自分の目で確かめ、顔と顔の見える交流が実現します。

また、ツアーに向けて、ウクライナを知る勉強会を一回/月のペースで開催します。

とどけウクライナへ!

98ミルクキャンペーン が始まりました。

先日、ロシア経済の危機（通貨切り下げ）が大きなニュースとなりました。旧ソ連であるウクライナもまた、この連鎖反応の渦に巻き込まれました。

1ドル=1.75グリブナでスタートしたウクライナの新通貨も、今では1ドル=約3グリブナ（40%以上のグリブナ安）にまで落ち込んでしまいました。さらに、物価も短期間に平均30～40%上昇し、ほとんどの人々は生活必需品のパンや肉（赤ちゃんにとっては粉ミルク）さえ、買う事が困難になってきています。

私達は、今年度も、恒例となったミルクキャンペーンとクリスマスカードキャンペーンを実施します。昨年までと同じように、通常の粉ミルクと特殊粉ミルク（フェニールケトン尿症児用）を贈りたいのです。昨年からは、ジトーミル州立孤児院の子ども達にも、粉ミルクをプレゼントできるようになりました。

ただ、皆さん既にご存じのように、粉ミルクの購入に対して、今年はボランティア貯金の交付金が認められませんでした。従って、**今年は皆さんからのカンパがすべてです。**

私達も、今年は積極的にバザーに参加したり、街頭でのキャンペーンを企画しようと張り切っています。皆さんの暖かい応援を待っています！

ミルクキャンペーン

期 間：10月1日～12月31日

ミルク代の振込は、ひと口 2,000円

（1kg入りのミルクが1缶買えます。

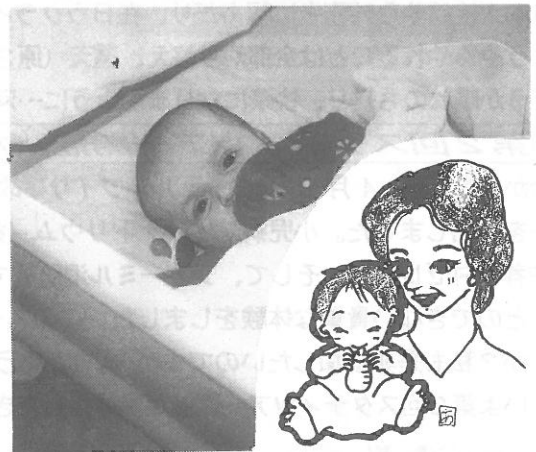
もちろん、半口 1,000円も大歓迎。）

郵便振替用紙で、下記まで振り込んでください。

振込先名称：チェルノブイリ救援・中部

振替え口座：00880-7-108610

お問い合わせ：052-836-1073



<州立小児病院に入院中の子ども>

クリスマスカードキャンペーン

期 間：10月1日～12月10日

郵送先：503-2223 大垣市稲葉西2丁目22

救援・大垣「むらさきつゆくさの会」

☎ 0584-91-6049（大谷早苗）

または、490-1111 海部郡甚目寺町郷浦15-2

☎ 052-444-0048（神野 綾）

もちろん、「救援・中部」の事務所宛（表紙参照）

<手作りのクリスマスカード（昨年）> でもOKです。



ウクライナ⇄日本 <情報ホットライン>

- 8/3 ・こんにちは、8/1 の運営委員会で、私達は長い議論の後、あなた方「移住基金」へ（日⇄ウ）の財政的支援を決定しました。1994年に結ばれた合意書を変更する必要があります。
- 8/5 ・私達は、あなた方が選択した「移住基金」へのいかなる支援にも感謝しています。（ウ⇄日）原さんの9月のジトーミル訪問について、もちろん私達はいつでも彼を歓迎します。しかし、なぜ9月に来るのですか？工事が終わってから来るべきではないですか？
- 8/6 ・ご意見ありがとうございます。お互いの意見の相違はあっても、相手を理解しようとする努力（日⇄ウ）が大切である事を私達は知らなければなりません。ナロジチ病院の暖房修理工事は、日本の専門家の参加を前提にしている、原さんは工事の完了を確認するだけではなく、工事が行われる9月中にナロジチを訪問したいのです。
- 8/13 ・暖房設備の修理費を受け取り次第、フェニックス社に建設期間などの計画を提出す（ウ⇄日）るように言います。／よい知らせがあります。私達の事務所の家賃が安くなります。
- 8/19 ・外務省から、ナロジチ病院の暖房設備のお金を得る事ができました。政府からのお（日⇄ウ）金は 170万円ですが、私達の資金81万円を足して 251万円送ります。自己資金がなければ政府からお金はもらえません。日本でお金を集める苦勞をわかってください。原さんの訪問は義務です。仕事に日本人の専門家が参加するのは、日本政府のODAのシステムです。これに同意できないならこのお金はキャンセルされます。
- 8/19 ・原さんの事は理解しました。暖房の供給は 10/15に始まるので、仕事をすぐ始めな（ウ⇄日）ければなりません。あなた方の「お金を得る途方もない努力」に感謝しています。
- 8/24 ・ありがとうございます。救援には、お互いの理解が不可欠です。あなた方の負担を軽くするた（日⇄ウ）め、原さんは滞在中自炊も可能です。／救急車の部品の代金を送りました。
- 9/7 ・ゼレムリャ診療所に関する情報を至急知らせてください。①診療所の水道工事をし（日⇄ウ）た会社の名前、②工事にかかった費用（等）。当初、私達はこの工事の援助を政府に申請しましたが、交付の決定が遅くなったので、あなた方は自力でこの工事を完了しましたネ。そこで、私達はこのお金の目的を、ナロジチ病院の暖房システム建設費の一部に変更する交渉をしたいのです。（㊦色々と努力をしましたが、結局この件は、変更が無理だという事になり断念しました。）
- 9/8 ・ナロジチでは、明日から仕事が始まります。作業員たちは原さんが来るのを心待ち（ウ⇄日）にしています。私達は、原さんの持参する機材が、税関で困難に遭遇する事を心配しています。／あなた方は、ロシアの経済危機について既にご存じだと思います。ウクライナのグリブナにも影響があり、物価は急激に上がり（30～40%）、予定していたよりも多くお金が必要となりました。でも、私達は決してあきらめません。
- 9/15 ・フェニックス社が突然仕事を切り上げ、誰も電話に出ません。なぜ彼等が去ったの（ウ⇄日）か、突き止められなければ裁判所にいきます。（㊧フェ社が倒産か？と心配しましたが、単に不足の資材を買いに行っていただけだとわかり安心）

チェルノブイリの少女カーリーナ 前編（『チェルノブイリの子供たち』より）

（※ カーリーナ…スイカズラ、ガマズミ科）

E. グツァーロ作（山崎タチアナ訳）

「名前はなんて言うの？」「カーリーナよ」リュボミールは驚いて「キリーナ？」「いいえカーリーナよ。こんな名前聞いたことない？私はチェルノブイリから来たの。今はヤブドローハおばあさんと住んでいるの。両親は出稼ぎに行ってるわ。この村では仕事が無いから。あなたは、おばあさんが言ってたリュボミールね。私もそんな名前聞いたことがないわ」そして二人ともおかしくて笑い出しました。

リュボミールは家に帰る途中、ふと、緑色の実がいっぱいあったカーリーナの木の前に立ち止まりました。まるで初めて見るようにカーリーナの木を眺めて、葉っぱや木の実に触りました。カーリーナの木は少女のように見えました。この木にスカートやブラウス、スカーフでも着せてみたら…と思ってリュボミールは笑いました。いつもチェルノブイリから移住してきたカーリーナの事を考えています。

彼の家の門のそばにもカーリーナの木があります。出かける時には彼を見送り、戻ってくると出迎えます。リュボミールはいいことを思いつきました。押入からお母さんが若いとき髪を束ねた赤いリボンを取り出し、カーリーナの木に結びました。

ある日お母さんが彼に聞きました。「何のために木にリボンを結んだの？まるで若いお嬢さんが庭に立っているようだね。ところで、あんたは移住してきた少女と友達になったんでしょ？あの子にこの青いスカーフをあげてね。もしかしたら将来家の嫁になるかも知れない」「何だって？」息子の顔は真赤になりました。「何を言っているの…お母さん…どうやって渡せばいいの？」

リュボミールはスカーフを受け取り、走り出したいのに足は動きません。やっと勇気を出してカーリーナのところにつきました。彼女はひよこに餌をやっているところでした。「はい、受取って！うちの母さんからだ」「わぁ、青いスカーフ！なんてかわいい…」「つけてみな」頭にかぶった彼女は、まるで野原の花のようになりました。「似合う？」踊りながら聞きました。「女には新しければ何でもかわいい」リュボミールはお父さんがいつもお母さんに言っているようにブツブツ言いました。



数日後、お母さんはまたリュボミールに、カーリーナのためにひとピンのハチミツを渡しました。少年は届けに行きたくありません。青いスカーフの後、今度はハチミツか。将来の嫁のため?!その時お母さんが「あの子がやつれたのに気づかないの？あの子にはハチミツが必要なよ。だってチェルノブイリから来たんだから。毎日少しずつ食べるといいよ」リュボミールがハチミツを持っていくと、カーリーナは花壇のところで刺繍をしていました。「母さんからハチミツだよ」といいました。カーリーナはハチミツを受取り、首を左右にひねって彼に青いス

カーフを見せました。でも彼は知らんぷりをしています。「なんでいつも君は花のところにいるの？村中を走り回って、おもしろいものを見せてあげる。川まで行こう。鴨の巣を見せてあげる」「巣を見てどうするの」「ヒナもいたよ！」



でもカーリーナは刺繍を続けて、青いスカーフの頭を振るだけです。「見てきて、私に教えて」「それじゃ意味ないよ、自分で見なきゃ…」「私はおばあさんの家のそばがいい。どこにも行きたくないの」「家から離れないとお婆さんみたいになってしまうよ！」と彼は怒って走って行ってしまいました。――カーリーナはなぜかどこへも行きたくないみたいだ。確かに顔もほっそりしたし、目は悲しげだ。あの子の夏は、おばあさんの家の回りだけなんだ…。

リュボミールはまた戻ってきて、「行こう！あいつらが飛んでいってしまうから。早く、早く！僕が川まで行ったら2羽の白鳥がいたんだよ！」カーリーナはゆっくり腰掛から立ち上がりました――リュボミールと川へ行きたい。白鳥をみたい…。でもやはり動こうとはしませんでした。「もう飛んで行ってしまったかもしれないわ。行ってもむだよ」「君ったら！」彼にはどうしても理解できません。雪のような白鳥をどうしてみたくないのか。もう二度とこちらへ来ないかも知れないのに…。

ある夏の日、嵐の前でした。空には雨雲が現れ、野原に黒い影を落としています。鳥は木の葉のように吹き飛ばされ、遠くで雷が鳴っています。濡れた髪のリュボミールがヤブドーハおばあさんの家に飛び込んできました。カーリーナは青いスカーフを着けて、何か書いていました。「嵐だ！雷が聞こえる？」カーリーナは目を上げ、落ち着いて窓の外を見ました。そしてまた書き続けました。外で雷がゴロゴロ鳴り、窓際のガラスピンがカタカタなるほど鳴り響きました。「聞こえる？これは空で馬車が走っているんだ！」「何の馬車？」「イリヤ預言者の馬車だよ。怒っているから雷を鳴らしているんだよ。おばあちゃんに聞いたんだ。イリヤ預言者は人間に怒っている…悪い人間に…互いにだましあったり、嘘をついたりするから。そして自分の土地にもいろんな悪いことをしている…ザドーヤおじさんは馬をたたいたし、ステパニーダおばあさんの井戸に誰か死んだ猫を投げ込み、井戸を使えなくした…それでイリヤ預言者はみんなに怒っている」カーリーナが聞きました。「私にも？イリヤ預言者に怒られるほど私はいったい何をしたの？」「知らないよ。たぶん君は何も悪くない」確かにカーリーナは何の罪もありません。外で再び雷の音がして、稲妻が光りました。「行こう！イリヤ預言者の馬車に乗ろう」「どこで？どうやって？」「地平線です。そこで馬車が地面に触れ、すばやく乗らなきゃいけないんだ。罪のない子どもだけが空を旅することができるんだ。君も行こう」「野原まで？地平線まで？」「うん、君と一緒に」「自分だけで行けば…」カーリーナはうつむいて、しばらくしてから悲しい目で彼を見ました。青いスカーフの頭を振って言います、「行けないの…」

雷は村を通り、野原を通過して、地平線へゆっくりと去っていきました。まるで誰かが馬車に乗るのを待っているかのように。夏はもうすぐ終わろうとしているのに、彼女は家から外へでないので、何も素敵なものを見ていないのがリュボミールはとても残念です。（つづく）

竹内さんのウクライナ便り

(救援・中部キエフ駐在員 竹内 高明)

< 98. 9. 7 >

世論調査・「ウクライナに秩序をもたらし、犯罪を押さえるため、
一時的に民主主義を制限することに同意しますか」

同意する…45%

同意しない…23%

[社会政治心理学研究所調べ 成人2043人回答]

答えにくい…32%

(『日々新聞』7/23号)

・自宅に水道がある人…78% 温水(地域給湯)…51% 下水道がある人…61%
電話がある人…49% 集中暖房がある人…61%

[成人1810人回答]

(『同』8/21号)

◎各種年金の未払総額は8月初めで10億7千万グリブナ。(『首都新報』8/11号)

◎ウクライナ国内の産業廃棄物の総量は250億トン。その廃棄場の総面積は16万ヘクタールに及ぶ。産業廃棄物のうち、再利用されるものは3割に過ぎず、再処理率は毎年20%ずつ減少している。(『イズヴェスチャ・ウクライナ版』8/13号)

9月9日に「ジュノーの会」の代表団(被爆者の方二人ほか)が来られる連絡など頼まれていたのと、ヴィザ更新の手続き、新学期の授業準備でバタバタしていました。

9月6日まで、銀行でのドル・レートは2.25グリブナに押さえられていた(ちまたの両替所では、2.45くらいまでグリブナ安になっていた)のが、7日からは「2.5~3.5」というのが公定レートになると言うので、両替所前ではドルを買う人の行列ができていました。『イズヴェスチャ・ウクライナ版』9月5日号によれば、小売り価格は平均30%、食品については20%値上がり(いつの時点か書かれていない)したそうですが、私がいつも買



路上で花束を売るおばあさん(キエフにて) 地下道のおばさんたちの野菜や、新聞の値段はかろうじて今のところ上がってはいません。しかし今後の物価の推移はまだ予断を許しません。またご報告します。

ところで大学の国際課の話では、労働ヴィザは外国人の滞在5年目までしかでない、その後1年日本に帰って来ればまた5年間は出せると言われました。または何かほかの資格でヴィザを取得する必要があるわけです。調べてみてなんとか切り抜きたいと思



赤い実をつけたカーリーナの街路樹(手前の木) っています。

リキデーターキャンペーンを振り返って

リキデータープロジェクト 田中良明

チェルノブイリ原発事故の事故処理に従事した事故処理作業
者（リキデーター）は、この事故のさまざまな被曝者グループのな
かで、最大かつ最も深刻な被害を被むった人たちです。私たちは、
運営委員会での度重なる議論や昨年（97年）5月の訪問団によ
る聞き取り調査などを経て、リキデーター支援に本格的に取り組
むことを決定し、昨年秋より支援活動の立ち上げのためにキャンペーンを行いました。



キャンペーンの柱になったのは次の2つのイベントです。

1つは、昨年5月の訪問団による、リキデーター聞き取り調査の報告会「石棺を閉じた男たちの現在」です。この報告会は、昨年11月22日から今年4月29日にかけて名古屋・浜岡・静岡・豊橋の各地で行われました。

もう1つは、今年4月から5月にかけて、ジトーミル州の消防士でリキデーターであるアントニウクさん・トビヤンスキーさん両氏を招いて行われた「チェルノブイリは終わらない」というタイトルの講演会です。この講演会は、土岐・名古屋・一宮・伊那で開かれ、また各地で交流会も行われました。

キャンペーン活動を通じて、各地の消防関係者とのつながりができたことが、最大の収穫でした。職業的連帯意識に基づく支援活動に発展していけば素晴らしいと思います。救援団体である私たちにとっても、自分で支援活動をするだけでなく、「支援活動の橋渡しをする」という新しい活動分野が開けてきたように思います。これからは、当面大々的なイベントは予定していませんが、ポレーシェ誌上で、また「チェルノブイリ救援・中部」のさまざまな活動の中で、リキデーター支援を訴えていきます。

来年夏に予定されている「第2回スタディツアー」には、このキャンペーンで出会った

方々にも広く参加を呼びかけて、一人でも多くの方に現地の状況に触れていただきたいと願っています。

これからも「チェルノブイリ救援・中部」の活動のひとつの柱として、リキデーター支援に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



土岐市での交流風景（1998/4/24）

原発から勇気ある撤退を！ 神野 英樹



あのキュリー夫人が、放射性物質「ラジウム」を発見してから、今年でちょうど 100年。彼女の「ノーベル賞」受賞の陰で、放射能は、この地球上にさまざまな「負の遺産」（原水爆や、原発から生み出される核のゴミ）を残してきました。これらの放射能により、今までに実にたくさんの尊い生命が奪われてきました。そう、キュリー夫人自身も、その最初の犠牲者の一人でした。ところで、私が「救援・中部」に参加するきっかけとなったのは、新聞に投稿した2通の『声』でした。

1989年（平成元年）2月12日（日） 朝日新聞朝刊 「声」欄

ああ末私避 には命れ射 てちすし つか 出処埋理 ががま がて射表作
 りるのをたけ放 なをば能② いはる続① つか 出処埋理 ががま がて射表作
 ま撤押ちて射 る機、を低 る子膨け厳 はばかで費るとそいてうくな廃あ電日、
 せ退しの通能 性私、レ こ孫大重 かなしし用捨のえのかいや出い棄り気
 んのつ子のの にと埋べ とかなのに いら、よにてかば理ならならまの物まが通
 か道けどこ危 しちめル ならエで、 かな今う天る、由含い、しはのし一産省
 をるもと凶 てはてで な先ネあ何 といは。とのそ貯らめた一たな処た番省
 選原やを性 生子廃も る取れ百 私こっ 地かれ蔵しなめ処。ぜ理。安から
 択発孫許は、 き孫棄危 りギば年 はとき ほでとしいい、理 か費といら
 しかたし、 てのす険 し！、も 考はり どはもてよ「計の 「用同一」
 よらちま① い健るの 浪、れ間 てをその え、知 の、厳うと算方 とが時と原
 う、にせも る康のあ 費私に管 費私に管 すのて 開確大重での法 うま、う力
 で勇後ん② こ・でる と生あ放 した要理 すのて 開確大重での法 うま、う力
 は気始。も と生あ放 した要理 すのて 開確大重での法 うま、う力

愛知県 神野 英樹（会社員）
**廃棄物を残す
 原発やめよう**

1990年（平成2年）4月28日（土） 朝日新聞朝刊 「声」欄

すな被れつ とてしルう 動たピ国的事和 も上れて最全はい管故進 し現ま力
 るい書まくしを、ノと今も。1か。故国そあがては近く三ま制にむグて地る発ソ
 この限のすずか避原被ブル、始日ルら病のかしり死き事に報十すが関ソラいで四電連
 とり実。れしけ発害イて世ま本がの気後らて亡た実な道一。敷し連スるは年所の
 に、態私去、てのもりい界る各出援治遣、「しし。をっが人事かてでノの今のチ
 賛すがはっこき危軽はる中う地さ助療症十先たて実伝て途一故れははスで、歳事エ
 成べは、てのま険微す人でとでれをやで万月。いはえ一絶と当て今あチしい月故ル
 でてっこい大し性ででた原し救る求予哀人に る、死え発時いなっ（よっががノ
 きのきのく前たにあにち発て援にめ防弱のは 「二こ者て表、るおて情うた流発ブ
 ま原り事よ提。言っ処はをいのいるのし子白 と百とのいさ」と厳も報かかれ生イ
 せ発解故うが 及た理、推またた「たきどロ い四が数まれ死言し、公。何ましり
 んを明にに一 す一が一進すめり旨めつもシ う十禁にして者わいこ開 がしてで
 運さよ思っ ると完ちし。のまの、て達ア 報人じ対た以のれ報の） 進たか原
 転れるわず こし了えよ 運しア外いが共 道以らしが、来数て道事が 行。ら子

愛知県 神野 英樹（会社員）
**ソ連原発事故
 説明を進め**

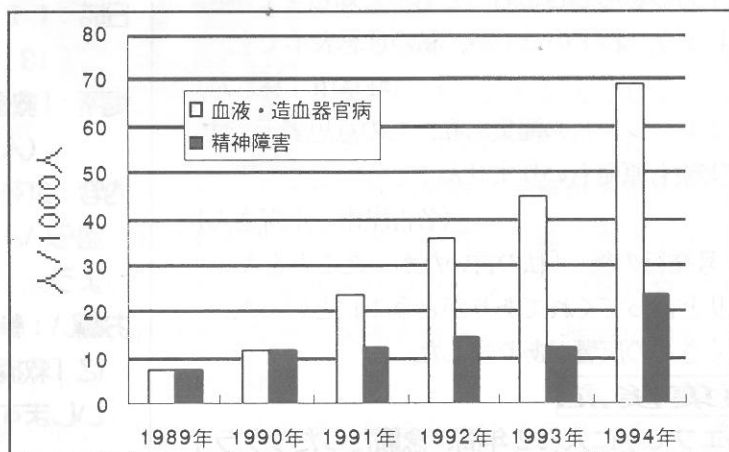
私は、それから8年間、この『声』を自問自答しながら過ごしてきました。そして、「浜岡原発」「六ヶ所村核燃サイクル施設」「チェルノブイリ現地」などを訪問し、原発について学ばば学ぶほど、『声』は『確信』に変わっていきました。この地球上にある原発が、すべて廃炉になる日を夢みて、これからも私は言い続けていくでしょう。『原発から勇気ある撤退の道を選択しようではありませんか！』・・・と。

病名	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
血液・造血器官病	7.2	11.2	23.7	35.4	44.7	69.2
新生物	0.5	1.2	1.5	1.5	1.9	3.3
血液循環器病	12.4	20.9	21.6	31.1	50.7	79.2
消化器官病	35.3	67.7	89.5	106.3	119	204.7
神経感覚器官病	34.8	48.1	56.3	61.1	74	120.1
精神障害	7.3	11.3	12.1	14.5	12.3	23.6
内分泌器官病	171.3	204.2	262.6	387.5	419.6	467.8
合計	558.81	726.71	803.95	882.43	963.58	1439.9

単位：人/1000人

ウクライナのチェルノブイリ原発事故被災者のうち、子どもたちは約 100 万人である。そのうち放射能濃度が高い、「管理地域」に今でもすんでいる子どもたちの病気のデータが上にあげた表に示されている。様々な病気が年々増加していて、1994年には 1000人当たり 1439.9人、すなわちどの子も約 1.5 個の病気を抱えていることになる。中でも、血液造血器官病、新生物（ガン）の伸び率が高く、5年間で約 10 倍になった。しかし、最も割合の大きなものは、内分泌器官病すなわち、良く知られた甲状腺肥大や、甲状腺ガンである。こうした傾向は、多かれ少なかれ、ウクライナ全体の傾向を示しているが、その程度

は全国平均の数倍から 10 倍は高い。こうした子どもたちの血液検査の結果は、Bリンパ球やTヘルパー細胞、キラー細胞などの免疫細胞が確実に減少している。また、近年、精神障害が子どもたちに多くなっているが、他の統計によれば、事故処理作業員を親



に持つ子供たちの精神障害発病率は、その他の場合と比べて特別に高い、という結果が出ている。（ウクライナ医科学アカデミー、小児科学、産婦人科学研究所論文より）



(河田昌東)

事務局便り

10月初めから、実質一週間程にわたり、ナロジチ地区病院支援工事の為の派遣が行なわれる。その為の準備で事務局は忙しい。しかもその慌しさに拍車をかけるいくつかの難題が持ち上がってきた。ウクライナ政府は、この支援事業の為に必要な工具等の持ち込みにあたって、税金をかけてくるというのだ。これらは救援の為に不可欠な道具であり、今後の病院設備充実に大きな役割を果たすものである。この「救援物資」を何とか無税にしようと私たちはできる限りの努力をしている。折りも折り、台風7号が名古屋を襲来した日、その為に嵐の中を駆けずり回った。幸いに私たちを支援して下さい下さっている方が、肝心なところで車を出して下さいその日の目的は果たせた。しかしまだまだ気は抜けない。無事この事業が終わるまでは、(山盛三千枝)

読者の声

●いつも「ポレーシェ」を送ってくださり、ありがとうございます。

読んでます!! (神奈川県 浅輪さん)

○うれしいお便りをありがとうございます。

これからも書き続けます!

●原子力の恐ろしさをもっともっと知らせていきましょう。わずかですが、私の意思表示です。

(岐阜市 林さん)

○「ポレーシェ」の編集も私たちの意思表示です。

●核実験も原発もいりません!

(名古屋市 上野さん)

○45号発行の後、「私の言いたかったことをキッパリと言ってくれてありがとう!」といった、たくさんの反響がありました。

編集後記

◎キエフで手に入れ2年間、念願だったウクライナの子どもの物語 (P.6~7) の翻訳がやっとでき、それに係れてとても嬉しい。ウクライナで食べた、ルビーのようなカーリーナの実の甘くほろ苦い味と思い出が胸に…。(京)

◎低金利でボラ貯の交付金が縮小される中、チェル救に対する一般の方々からのカンパは毎年増加している。ボランティア仲間が増えていくようで嬉しい。(J)

◎自然には雨も必要だと思いつつ、久しぶりの青空に心が踊る。校庭に上がる歓声に生き生きとしたエネルギーを感じた。ウクライナの地にもこの躍動が届き活力になればと願う。(美)

●感動の「ポレーシェ」をいつもありがとうございます。

(知立市 伊藤さん)

○ありのままの事実を伝えること。それが感動の源かもしれませんネ。

「ポレーシェ読者の集い」

開催のお知らせ

日時: 11月8日(日)

13:00~16:00

場所: 「救援・中部」の事務所

(人数により変更の可能性あり)

内容: 紅茶を飲み、ケーキを食べながら語り、楽しいひとときを過ごしましょう。

お願い: 参加希望者は、10月末日までに「救援・中部」まで電話連絡をお願いします。

詳しい案内をお知らせします。